

## 謝辞

温かな春の日差しが琵琶湖を照らし、新たな挑戦への希望を抱くこの良き日、私たち修了生のために盛大な学位記授与式を挙げていただき、誠にありがとうございます。

本日、ご臨席を賜りましたご来賓の皆さまをはじめ、大学の教職員の皆様方には、修了生一同、心より厚く御礼申し上げます。

今、大学院の入学式がまるで昨日のことであったかのように感じております。琵琶湖や比良山系の雄大な景色に囲まれながら学生生活を送った濃密な時間を振り返り、関わってくださった皆様に感謝の辞を述べさせていただきます。

私たち修了生は、それぞれが自ら究明すべき問題を見出し、向き合い、探求してまいりました。そのひとつの節目として、今日の日を迎えています。

私自身は、10年以上続けたアーティスティックスイミングでの大きな挫折をきっかけに、スポーツ心理学に興味を持ち始めました。競技生活では、常にコーチの顔色を伺い、評価されたい、認められたいと、外的な評価を気にするような選手でした。そのため親元を離れて競技に打ち込んだ高校生活では、本当の意味で自分と向き合うことを知らずに挫折し、引退しました。この経験をきっかけに、大学ではスポーツ心理学を学び、自分に対する悔しさはアスリートをサポートするという立場で活かしたいと強く思うようになりました。

そして、意味ある偶然を実感した、あるひとりのアスリートへメンタルサポートをきっかけに、大学院ではメンタルサポートを通じたアスリートの心理的変容の探求に多くの時間を費やしてまいりました。メンタルサポートではアスリートと対話しながら、アスリートが悩みもがいている暗い時期も、大きな世界大会の代表として名前があった時の喜びも共にし、本当に心震える体験をしました。この体験を通じて、アスリート一人一人の成長がどれほど尊いことなのか、強く実感しました。

メンタルサポートや研究を通してスポーツ心理学の奥深さの一端に触れ、より専門的な学びの楽しさを胸に刻みながら過ごすことができたのは、先生方のご指導の賜物と存じ、深く感謝申し上げます。振り返れば決して楽な道のりではありませんでしたが、スポーツ心理学の面白さが支えとなり、今日まで歩んでくることができました。また、多くの時間を共有し、切磋琢磨した院生の仲間たちの存在に大きく励まされ、勇気づけられました。

この2年間の学びと経験はこれからの人生に大きく影響し、また、私にとって大阪成蹊学園で過ごした9年間は大きな財産になります。

今後は新たな挑戦として、異国の地でアスリートに関わることになりますが、ここで培った能力を存分に発揮し、当事者意識を持って研鑽し続けたいと存じます。

改めて、今この場に立てていることは決して自分の力だけではないこと、当たり前なことではないことを胸に刻み、今日までご指導いただいた先生方、職員の皆様方、そして、いつも温かく見守り、支えてくれた家族に修了生一同、心より感謝申し上げます。

今日の日を節目とし、励みとして、より一層邁進して参ります。

最後になりましたが、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、教職員の皆様方のご健勝とご多幸、並びにびわこ成蹊スポーツ大学のさらなる発展を祈念し、修了生の謝辞と致します。

2025年3月21日

大学院 修了生代表

野村 美穂子